

松下幸之助記念財団 研究助成

研究報告

【氏名】善教 将大

【所属】(助成決定時)立命館大学大学院 政策科学研究科 博士課程後期課程

【研究題目】

日本の政治的信頼の時系列変動に関する実証研究：
政治的信頼はなぜ変化しどのような帰結をもたらすのか

【研究の目的】

本研究の目的は、近年多くの論者から注目を集めている「政治に対する信頼感」(以下政治的信頼と略)に注目し、この政治意識の動態および機能について、実証的に明らかにすることにある。具体的には、1)日本における政治的信頼はどのように変化しているのか、2)政治的信頼の変動を規定している要因は何か、3)政治的信頼の変動はどのような帰結を生じさせるのか、という3つの問いについて、理論的かつ実証的にこたえていくことを目的とする。これらの問いを明らかにする理由は、政治的信頼の重要性が近年多くの論者に認知されてきているにも関わらず、その動態やメカニズムに関する考察が決定的に欠けているからである。とりわけ、政治不信の度合いが国際的にも高いとされる日本において、政治的信頼がどのような変遷を辿り、また、それがいかなる意味を有するのかを明らかにすることは、政治学における喫緊の課題であると考えられる。

【研究の内容・方法】

以上の問いに対し、本研究では大規模サンプル・サーベイ(政治意識調査)を用いた計量的な手法を中心としつつ、これを補完する形での事例分析も併用しながら分析を行っていく。具体的に用いるデータは、1976年に実施されたJABISS調査、1983年に実施されたJapanese Election Studies調査、1993年から1995年にかけて実施されたJapanes Election Studies II調査、2001年から2005年にかけて実施されたJapanese Election Studies III調査などである。

より具体的な内容は以下の通りである。第1に、本研究では政治的信頼の構造と動態を明らかにするために、上述した複数のデータを用いた共分散構造分析を用いて政治的信頼の下位次元について明らかにしたうえで、それぞれの次元ごとの時系列推移を分析した。結果として、政治的信頼には特定の政治的対象に向けられる信頼とシステム一般に向けられる信頼の2つがあることが明らかとなった。くわえて、それぞれの次元ごとに推移を分析した結果、前者については1990年代に大幅に低下し、後者については1970年代より徐々に低下傾向にあることも明らかとなった。第2に、以上の知見を踏まえたうえで、なぜ政治的信頼は低下したのかという問いにこたえるために、それぞれの次元ごとの変動要因を計量・事例分析より明らかにした。結果として、特定の対象に対する政治的信頼が90年代に低下した理由は、55年体制が崩壊し選挙制度改革が行われたことで政治の「流動期」が出現したため、一方でシステム一般に対する信頼が低下した理由は、社会・経済的変動に伴う価値観の変化によるためであることが明らかとなった。第3に、政治的信頼が低下することの何が問題か、すなわち政治的信頼の低下はいかなる帰結をもたらすのかを実証的に明らかにした。結果として、政治的信頼が低下することで、投票参加等が行われなくなるため政治システムは非効率・不安定になりつつある一方で、システム・フィードバックの機能はより効果的になるというパラドキシカルな現象が生じつつあることが明らかとなった。

【結論・考察】

本研究の分析より導き出される結論は以下の 2 点である。第 1 は、低下しつつある政治的信頼を回復させることは困難である可能性が高いという点である。これは、特定の政治的対象に向けられる信頼が「政府」に対する認知や認識に規定されている一方で、システム一般に対する信頼はそうではなく、社会のあり様、あるいは基底的な価値観によって規定される政治意識である点に拠る。第 2 は、仮に何らかの方法でシステム一般への信頼を回復させたとしても、それをもって政治システムが機能するとは限らないという点である。信頼は、多くの論者が主張するように、政治システムを安定的かつ効率的に機能させるうえでの「潤滑油」である。しかしながら、一方で信頼はシステム・フィードバックの機能を阻害し、政治システムを非効果的にする要因ともなる。したがって、今後は、信頼をいかにして回復させていくのかという点のみならず、このパラドクスをどのように解決していくかを検討していくことが求められるといえる。